

フィールドデーコンテスト 入賞者レポート

今回、電話電話部門のシングルバンド優勝者を中心に6人のシングルオペの方からコンテスト参加レポートをいただきました。

シングルバンドではシンプルな設備でも、また大票田である関東・近畿エリア以外でも優勝の可能性があります。

一方、オールバンドではHFのアンテナをどうするかが課題になりますが、フィールドデーコンテストならではの「移動局の得点2倍」というメリットを生かし、固定局の大設備、高出力を抑えて入賞することが可能です。

夏に野外へ移動するフィールドデーコンテストではクラブの親睦を兼ね、バーベキューをやりながらマルチオペレーションで参加するのも楽しいものです。

しかし、マルチオペで優勝を狙うチームは屋外にLANを敷設し、コンピュータネットワークを駆使して得点・マルチを稼ぐ時代になってきました。今回、関東・東海エリアで壮絶なバトルを繰り広げた3チームからレポートをいただきました。

なお1997年に電波法施行規則が改定され、個人局でもゲストオペレータによるマルチオペレータ運用ができるようになってきました。JARLコンテスト規約も「個人局」「社団局」から「シングルオペ」「マルチオペ」という区分に変更されています。すなわち、社団局によるシングルオペ参加、個人局によるマルチオペ参加が可能になっています。

- 電話部門シングルオペニューカマー1位 JO7GNI/7 相原 裕昭
- 電信電話部門シングルオペオールバンド優勝 JM1LRQ/1 荒井 伸之
- 電信電話部門シングルオペ 14MHz バンド優勝 JE4MHL/4 手島由裕
- 電信電話部門シングルオペ 28MHz バンド優勝 JE8FGY/8 岩井 信行
- 電信電話部門シングルオペ 50MHz バンド関東1位 JR1ERU/1 千野公久
- 電信電話部門シングルオペ 144MHz バンド東海1位 JO1ZRT/2 ハムランド AMC
- 電信電話部門マルチオペオールバンド優勝 JR0UUU/1 井原一高
- 電信電話部門マルチオペオールバンド2位 JI2ZLX/1 恵麓コンテストクラブ
- 電信電話部門マルチオペオールバンド3位 JK1YMM/2 寝てはいけないコンテストクラブ

自然の中で楽しむ QSO

電話部門シングルオペニューカマー1位

JO7GNI/7 (相原 裕昭)

バンド	得点	マルチ
7MHz	187	35
21MHz	11	9
合計	198 ×	44 × 2 = 17,424

プロフィール

2001年11月、JO7GNI局として初開局。無線に関しては全くのド素人であったが、秋田県本荘市の本荘ハイソサエティアマチュア無線クラブ

(JE7YAI) に入会すると、クラブ OM さん方の協力により短波デビュー。コンテスト、移動運用の楽しさを短期間で覚えることができた。

コンテストは 2002 年 6m AND DOWN コンテストが初参加で、今回のコンテストは大学が夏休みに入ったこともあり、地元の福島県で初めて単独でコンテストに参加した。

使用機材

- RIG:ケンウッド TS-140V
- ANT:7MHz フルサイズ DP(自作), アンテナチューナー, SWR 計
- 発電機 (97 年の JARL 会員増強キャンペーンで登録クラブビッグチャンス賞として当クラブで頂いたものを借用)
- ログソフト:手書きログ用紙
- 安定化電源, ビニールロープ, テントやテーブルなどキャンプ用品一式,
- 食事と飲み物 (インスタントご飯, カップ麺, レトルトカレーなど)
- 照明 (持っていくのを忘れたので急遽自作), ガソリン携帯缶, ヘッドフォン

この部門を選んだ理由

コンテスト初心者であることと、参加できる期間が限られているからという 2 つの理由で、2 バンドのみの参加だったが迷わずにこの部門への参加を選んだ。

獲得目標

今回は単独での移動運用ということで不安要素が多く、まともに運用できるかどうかも未知数だったため、トラブル無く参加することを中心に考えた。目標は過去のコンテスト結果と、今まで行なった移動運用の実績から 200 局を目標に挑戦した。

改善ポイント

短波でのコンテスト参加は初めてだったのでハード的な改善点は考えなかったが、前回 6m AND

DOWN コンテストに参加したので、モチベーションの上げ方はうまくいったと思う。また HOME QTH がある秋田県内で運用するよりは実家のある福島で運用した方が交信可能エリアが広がると思ったので、今回思い切って遠距離移動を行った。

準備

場所の選定を前から計画を立てておいた。今回はキャンプを兼ねた移動だったので、キャンプ場を予約するところから始まった。運用地はどうしても珍しい町村で行ないたかったが移動距離が長くなると疲れるので、福島市近辺で探すことにした。

初めは福島県安達郡大玉村の「フォレストパーク あだたら」という大変 FB なキャンプ場で運用したかったが、予約がいっぱいで断念し、2 つ目の候補地である福島県伊達郡桑折町 (こおりまち) の「半田山自然公園キャンプ場」に決めた。後から考えると予約でいっぱいキャンプ場ではアンテナの設置場所や夜間のオペレートなど、他人の迷惑にならないような運用が困難だったかもしれないので、運良く空いていた桑折町のキャンプ場でオペレートできて良かったのかもしれない。

機材の準備は 8 月 1 日に秋田から福島へ帰省した際に、発電機やリグなど移動運用セット一式を運んできていたので直前に慌てることはなかったが、夜間の照明を忘れてしまい、当日に急遽ホームセンターで裸電球を買ってきて照明を作るはめになった。

コンテスト当日

土曜日の午前 9:00 ごろ実家の福島市を出発し、約 20km 離れた福島県伊達郡桑折町の半田山自然公園キャンプ場へ移動、午前中はテント設営と設備作りを行った。

7MHz フルサイズのダイポールアンテナは、指向性を考え東西方向に松の太い枝にくくりつけ、地上高 5 メートルぐらいの場所に張った。幸い利用者が少なかったので邪魔にならない隅のほうに、テントとアンテナが設置できた。

ロケーションとしては南方は福島市内が開けてい

るが、北側は半田山がすぐそばにあり完璧ではなかった。しかし居心地の良さなども含めればとても FB な場所だったと思う。

昼食の後、午後からはリグとアンテナの調整を含めて夕方まで 7, 21MHz で CQ を出し、約 90 局ほどと交信を行なった。

コンテスト直前 30 分前に運良く 7MHz で周波数確保に成功。そのままコンテストに流れ込み、7MHz でずっと CQ を出し続けることができた。ただこのゴールデンタイムに 1 時間 40 局しか QSO できなかったのは、コンテスト独特のパイルをさばききれなかった未熟さにあると思う。

22:40 過ぎ、突然電球が切れ、真っ暗に……たぶん発電機の電圧の変動で切れてしまったのだと思うが、おかげで周りは真っ暗になってしまい、絶体絶命のピンチに。

リグの周波数表示と懐中電灯の明かりでその後のオペレートを行なったが、このトラブルで周波数を取られてしまった。何とか切り抜け、空いている周波数を見つけて CQ を出したが、QRM がひどく局数は伸びなかった。結局その日は、設営などで疲れたせいや日付が変わる前にダウンしてしまった。

日曜日もお約束の (?) 寝坊から始まり、オペレート開始が 8:00 を過ぎてしまった。なかなか頭も動かず、7MHz をうろうろさまよった結果、10 時までの 2 時間弱で 30 局しか QSO できなかった。この朝からの流れが今回の最大の反省点だと思う。

10:10 過ぎから 21MHz に移ったが、コンディションが不安定で、近県と北海道、九州以南の局としか QSO できず、再び 7MHz に戻った。

11 時台には再び 50 局弱と QSO でき、そのままのペースで 12 時台になだれ込んだが、12 時台は QRM と呼ばれる局数が減少したせいで、だらだらとなってしまう。

12:45 ごろ、ふとリグのボリュームを絞ると、遠くでゴロゴロという怪しげな音が聞こえてきた。その後は一目散に撤収を行ない、コンテストどころではなくなり、もはや雨が降る前に機械を車に積み込むことで必死だった。

結局、設備を一式車に積み込んだところで集中豪

雨が襲い、テントがずぶぬれになってしまったが、間一髪でリグや発電機は無事だった。

雨はかなり長い時間降り続いてしまい、続行不可能と判断し、コンテストを終了せざる得なくなった。

反省点

今回は HF のリグ 1 台でコンテストに参加したことが、マルチが伸びなかった最大の原因だと思う。やはり 7, 21MHz のみではマルチを稼ぐにも限界があり、この部門で 2 位には完全にマルチで負けてしまった。2003 年は V・U の FM と SSB の設備を追加して移動しようと思う。

あと、睡眠時間が長すぎて、まともにオペレートした時間があまりに短かったのも良くなかった。コンテスト数日前から睡眠を多めに取るなどの準備をしなくてはならないことを今回のコンテストで学んだように思う。

移動スタイルは、キャンプということでテントを持っていったことが逆に裏目に出たのかもしれない。本当にコンテストに集中するためには、余計な荷物を極力減らし、設置と撤収を短時間でできない、車や公園の屋根付き休憩所をオペレートや睡眠の場所にするのがシンプルでいいかもしれない。

今回はテントの外にテーブルを置き、完全に屋外でオペレートしたので雨に負けてしまった。

アドバイス

私自身が、全くの初心者なので逆にアドバイスをいただきたいところだが、完全な素人の目からニューカマーに対するアドバイスとしては、体調を万全にし、天候に左右されない屋根付きの屋外でオペレートするのがいいと思う。夏場は天候も変わりやすく悩みの種になってしまうからである。屋内での参加もいいが、やはり得点が 2 倍になる屋外は魅力である。

あとは局数の多い 7MHz でねばり強く局数を稼ぐことが大切だと思う。そして QRM などで運用が困難になったら、名残惜しまず別なバンドへ QSY することが大切だと思う。

もう一つはできるだけたくさんバンドに出ることであろうか。マルチの数が勝敗の分かれ目になっていることも事実だと思う。

ンク 30 リットル分, 脚立, テーブル, スタンドライト, ランタン, 工具箱, 水タンク, クーラーボックス他 総重量 210kg

仲間とのバトルで精魂尽き果てた

電信電話部門シングルオペオールバンド優勝

JM1LRQ/1 荒井 伸之

バンド	得点	マルチ
3.5MHz	108	39
7MHz	154	41
14MHz	114	36
21MHz	155	36
28MHz	44	15
50MHz	232	29
144MHz	66	14
430MHz	112	11
1200MHz	38	9
2400MHz	25	21
合計 1,048 ×		251 × 2 = 526,096

プロフィール

1980年開局以来, 国内外のコンテストに参加してきました。近年は JARL 主催コンテストを中心に参加しています。フィールドデーコンテストはマルチバンドで過去 16 回参加しています。

使用設備

- リグ: TS-950SD ,TS-60S ,TS-790S ,TM541 ,トランスバータ
- 周辺機器・小道具: アンテナチューナー ,エレキ , スイッチング電源
- アンテナ: 逆 V , ダイポール , 八木 , GP , スクエアロ , ループ八木
- その他移動機材: 発電機 (750W) , マスト用ポール 7 本 (延べ 50m) , 同軸ケーブル 10 本 (延べ 165m) , タイヤベース 2 つ , ガソリント

なぜこの部門を選んだのか

1984 年からマルチバンドで参加しており, 毎年異なるコンディションの変化に対応したオペレーションの面白さに取りつかれてしまったため。



獲得目標

ここ数年目標にしているスコアは 60 万点です。過去の参加経験から 1,100QSO , 275 マルチとしました。

改善・強化ポイント

3.5MHz 用に専用マストポール (13m) を追加。50MHz のアンテナを 2 系統にした。2400MHz のアンテナを WHIP からループ八木 (15ele) に変更した。

準備

年に僅かの移動運用であるため, 持ち物チェックリストを作成し忘れ物がないようにしました。7 月は毎週末不足している物品の調達に費やしました。また, 一年ぶりに使うアンテナ, 無線機器の動作確認および調整を実施しました。さらに自宅のアンテナを一部取り外して移動で使用しました。

コンテスト当日

今回は同じ山にクラブメンバ (JK1XDB 大久保氏, JR8LRQ 小竹氏)3 名で移動し,それぞれ同じ部門でバトルをすることとなりました。

年々移動機材が多くなっており,設営するアンテナの本数が多いため前日から山に入って準備を行ないました。近くに移動している JK1XDB と夕方は麓の温泉に行き,夜は山で前夜祭(宴会)をしました。

コンテスト当日は朝から残りのアンテナ上げを行ない,昼前にはほぼ上げ終えたので,麓に昼食を食べに出掛けました。

午後から車内のシャック作りに取りかかり,夕方までにほぼ準備が終わりました。

夕食を食べて少し仮眠を取り,20:00 からの 2400MHz ロールコールに声を出しました。他のバンドの状況を一通りワッチして開始時間を待ちました。

スタートから終了まで

2400MHz からスタートしました。その後 1200MHz HF ハイバンドと QSY し,ハイバンドのコンディションが落ちる前に少しかだけ交信しておきました。23 時台は V/UHF 帯に QRV したこともあり,多少レートが上がりました。その後午前 0 時過ぎに 3.5MHz に移りました。しかし,雷の影響でメータが振り切れる位のバサッバサッといったノイズが深夜まで続き非常に苦労しました。

午前 6 時台は特に効率的なバンドが見つからず,8 バンドに QRV して凌ぎました。午前 7 時台から HF ハイバンドを中心に運用しましたが,コンディションが悪くなくグラウンドウェーブによる交信が殆どでした。

午前 10 時,ハイバンドのコンディションが良くなって来て,8 エリア方面のマルチを獲得することができました。しかし予定に対して局数が少ないため,切り札の 430MHz に QRV し,正午の時点で 900QSO になりました。

正午を過ぎてもハイバンドのコンディションが上らず,マルチ数が全く増えなくなっていました。2400MHz をワッチしながらの運用でどうにか凌ぎました。

午後 1 時半頃から漸くハイバンドのコンディションが上がって来ました。残り時間が少ないこともあり,14MHz~50MHz の 4 バンドでできる限りマルチ数を増やしたいところでしたが,14MHz と 21MHz に注力して運用を行ない,マルチを 20 個ほど上乗せして終了となりました。

コンテスト終了後,例年ならば即アンテナの撤収作業に入りますが,今年は仲間とのバトルで精魂尽き果てたうえに雨が降り出してしまったこともあり,撤収を中断してそのまま車中に泊まり,翌日に残りの撤収を行ないました。

反省点

ハイバンドのコンディションがいまひとつだったこともあり,マルチの獲得に苦労しました。その影響で 1 エリアでは効率的に局数が増やせる 144/430MHz の運用時間が少なくなってしまい,QSO 数も目標に届きませんでした。

近年 V/UHF 帯での局数が減少する傾向にあるため,HF 帯のアンテナを強化していく必要があると感じています。

アドバイス

コンテスト目的に移動するのも良いのですが,家族や仲間とレジャー,旅行を目的に参加してみるのも良いと思います。私は温泉に行ったり,現地の名物を堪能することも目的にしています。

また手頃な機材でも充分楽しめるコンテストですので,ぜひ参加してみてください。

JM1LRQ Nobuyuki Arai

jm1lrq@jarl.com

簡単な設備でも勝てる

電信電話部門シングルオペ 14MHz バンド 優勝

JE4MHL/4 手島由裕

得点	マルチ
336 ×	54 × 2 = 36,288

プロフィール

小6で始めたBCLがきっかけで電話級の資格を取得。高校(JA4YBR)のFD合宿でコンテストに目覚め、1983年に開局。その後、大学(JA3YDS)、社会人(JH4ZNE)と一貫してクラブ局(マルチオペ)をメインにコンテストに参加しています。特にここ数年は、近隣のビッグステーションにお邪魔(ゲストオペ)することで更にDEEPなマルチオペを楽しんでいます。

一方、個人コールでの成績は今ひとつで、今回の優勝は88年の全市全郡(3.5MIX)以来JARLメジャーとしては実に14年ぶり2回目ということになります。



使用機材

- リグ:TS850S with DRU2
- アンテナ:釣竿ロータリー DP + FSP610D
- 周辺機器:MFJ259, ProSET5, BY-2 ほか
- パソコン:FMV475NU/S + zLogV
- 移動機材:mazda-FAMILIA, 発動発電機(借)

なぜこの部門を選んだのか

前年に続いてクラブでの参加がなくなり、単独での移動となった今回のFD。お手軽なシングルバンドでも十分楽しめそうなバンドの電信電話部門を候補としました。狙いは14MHzですが、CONDXに左右されることを考え、7MHzもバックアップ案として準備し、当日の太陽活動予報+現地での勘?に判断を託すことにします。実際には、後述する設営スペースの関係から電信電話14MHzに落ち着きました。

獲得目標

参加する以上はレコードである(JF4CZL@JH4ZNE)の98年の記録(437 × 56 × 2=48,944)を狙いたいところですが、大オープンがないと厳しいため、前年電信部門で3位だった自身のスコア(332 × 53 × 2=35,192)を必達目標として目指すことにしました。

改善・強化ポイント

当然ながらFDは移動運用しなければ興味も半減です。前年は久々の単独移動ということで近所の林道でお茶を濁した結果、成績は今ひとつでした。

そこで今回は設備は流用のまま移動地を変更しました。少し遠くなりますが、クラブで実績のある単独峰、呉市灰ヶ峰です。良いロケーションを自由に選択可能な点もFDの魅力の一つだと思います。

準備

ハード面:設備は移動グッズの点検のみ。今回は(JH4HFJ)佐々木さんのご厚意で事前に発発を貸していただいたおかげで、1週間前にすべて準備完了。ソフト面:前年のデータを元にzLog用spcファイルを更新し、前日までにcfgファイルともども実使用環境下での動作チェックを終了。

コンテスト当日

手馴れた移動地までの所要時間は1時間強。のんびりと14時に自宅を出発し、途中で食料品他を買い込み、予定通り15時過ぎに現地到着です。

ところが4年ぶりの灰ヶ峰山頂は、当日夕方からの呉港花火大会を狙ってカメラ用三脚が林立し、すでに混雑が始まっています。アンテナの展開可能スペースの狭さから、バックアップ案の7MHzは無理と判断し14MHzでの参加を決定、なんとか山頂付近の一角に陣取り設営を開始します。真っ先に伸縮ポールで釣竿DPを設置し、SWRを測定する頃には山頂スペースは満車状態に、間髪を容れずです。

設営中に隣に停まった車は、昔HFに出ていたという方で、簡単な説明で状況を理解していただき助かりました。コンテスト中のシャックとなる車室内の準備も含め19時までにはすべての設営が終了です。

車載テレビでプロ野球中継を見ながら弁当で腹ごしらえし、20時からゆっくり花火大会を楽しんでいよいよコンテストに突入です。

スタートから終了まで

まずスタートはSSBでCQ連呼です。4エリアからは全国的に開けており、22時までの1時間で54局となかなかのペースですが、前年のCWでも53局できており油断は禁物です。その後はCW、SSBと交互にQSYしますが、0時までにはSSBの局数が潤ってしまい、CW中心で我慢の時間帯に入ります。

S & Pを続けていると5エリア各局の気合いのCQがずっと聞こえており、こちらの危機感を煽りますが、セットしておいた電波時計の目覚ましのおかげで、致命的なタイムロスなく地道に局数を積み重ね、明け方までは前年を15局程度上回る局数で推移します。

ところが、CONDXが上がるはずの7時台にSSBで攻勢に出ますが、レートが上がらず夜中の貯金を使い果たしてしまいます。前年爆発した8時台も

パッとせず、目標とのギャップは広がるばかりです。

その後も頻りにバンドチェンジしますが、常連局のおかげでマルチは着実に増えるもののレートは今ひとつで、山頂を訪れたSHF移動グループの方々と歓談する余裕があるほどです。お昼前には前年比で約50局減と必達目標に赤信号点灯です。

昼食時には完全に意気消沈モードでしたが、いつもは終了に向けて局数がフェードアウトいくこの時間帯で、逆に20局/h以上と徐々にレートが上がっていくではありませんか。ここで気を取り直して最後までがんばった結果、局数、マルチともにギリギリではありますが必達目標をクリアでき、気持ち良く終了時間を迎えることができました。

終了後は入道雲から雷雲が生じ、撤収中に約20Km北の絵下山に落雷するなど冷や汗ものでしたが無事に撤収作業を終了。17時半には自宅でのんびりと風呂につかることができました。

反省点

最終結果は $(331 \times 53 \times 2 = 35,086)$ と残念ながら必達目標にわずかに1局及びみせんでしたが、何とか帳尻合わせはできたようです。長時間のバンドオープンがなかったCONDXを考えると、今回のスコアはまずまずと言えると思います。

強い反省点を挙げるとすれば、電信比率(62%)でしょう。参加者の全員が電信の資格を持ち、また電信愛好家も多いバンドですが、スコアメイク的にはもう少し比率が低い方が有利と思われます。

来年こそはバンドが長時間オープンしレコードブレイクをと言いたいところですが、久しぶりにマルチオペに復帰したいのが本音です。

アドバイス

コンテスト全般としては、やはり、最後まであきらめずにがんばることが第一だと思います。途中でトラブル発生やCONDX低下など、やる気を削ぐ要素はいくらでもあります、それを乗り越えて頑張った人に成果がついてくるものだと思うからです。FDコンテストはそのルール上、私のように簡単な

装備でも十分入賞できるコンテストです。また、親睦を目的として参加するクラブ局も多く、初心者の方がアドバイスを受ける場としても最適です。皆さんにぜひ気軽に参加いただきたいと思います。

自分のペースを崩さずに楽しむ

電信電話部門シングルオペ 28MHz バンド 優勝

JE8FGY/8 岩井 信行

得点	マルチ
235 ×	49 × 2 = 23,030

プロフィール

1984年、HF 10Wで開局。1993年ごろから、固定移動で28MHzで各コンテストに参戦。

使用設備

- IC756Pro + 4ele Yagi & GP
- 約9mの伸縮ポール
- ノートPC + zLogw
- PCとは別系統にパドルを用意し、RIG本体のエレキーを使用

なぜこの部門を選んだのか

このバンドに居座って、もう10年近く経ってしまいました。参戦当時は28MHzといえば出力の上限が50Wでした(移動局は今でも50Wですが)。大きく設備に左右されず、しかも北海道からはEスポで勝てるチャンスありというこのバンドが面白いと感じました。

当時、まだ学生だった私の設備はTS530S + 2ele HB9CV、手書きログと決して大掛かりな物ではありません。自分の車も持てない私にできる規模が、この大きさでした。

10年経った今、すっかり自分の置かれる環境も変わってしまい、またコンテスト自体も、参加局の減

少、マンネリ化等、状況は刻々と変化を続けていますが、しかし、電波が目に見えないことだけはいつになっても変わらないでしょう。どのバンドにせよ、コンディションが見えないからこそ、楽しいのではないのでしょうか?

目標

移動運用に、トラブルはつき物です。18時間をオペレートできる設備をしっかりと組み上げ、事故なく撤収することが大前提にして最大の目標です。

因みに昨年は発々、RIG、PCと次々にコケてしまい、無念のリタイアでした。移動運用では、予備品を含めた最小単位での移動がベストです。

このバンドの場合、スコアはEスポ任せになるので、数字の目標は余り意味をなしません。マルチのみ、例年どおり50マルチを目標にします。

改善・強化ポイント

最大の変更点は、ANTは6eleから4eleへ変更した点です。それまでは自作のHB9CVを使用していました。

約10年で2 5 6と順調に成長していったのですが固定と共用の設備なので、固定で運用するのはともかく現地で設営する手間を考えると、いささか面倒です。現在はCY104になり、取り扱いも手頃です。

準備

数日前から、持ち物をチェックします。昨年までの失敗を繰り返さぬよう、思い返しながらかし、極力荷物は増やさぬようにします。忘れやすいのは、暖かい着衣と着替え。夜中に冷え込んだり、雨に当たったりしたら最悪です。

当日

当時は朝から曇天。例年FDで雨に当たったことはほぼ皆無でなので、勝手なジンクスに従い、晴れてくることをこれまた勝手に確信します。午前中は

発々の引き取りやら積み込みやら過ぎていきます。お昼過ぎに、荷物満載で出発。所要時間は、普段なら1時間くらい。今日は途中買出しもあるのでたっぷり2時間の予定を組みます。

石狩(106)から空知(105)に入る頃、ポツポツ降りだしました。ホームセンターで、足りない部材や虫除け線香等を調達し移動地に一番近いGSで、発々とガス携行缶に給油。以前は地元で出発前に給油していたのですが、この悪天候の中、窓を締め切って数時間のドライブするのは余りにも恐ろしいので、少々高上がりについても、今回は現地調達です。

しかしこの頃、既にあたりは土砂降り。真夏とは思えないような肌寒さ。嫌な予感がします。

ここからゆっくりと山登りが始まり、まずまず整備されている林道を登ります。雨足は相変わらず。クルマの屋根を叩きつけるように激しく落ちてきます。現場入りする前にこりゃ、ダメかな...と思えてきます。自分の心が弱くなるのを感じながらも、歩みを止めません。

車内に充満する気化したガソリンの強烈な匂いと、大きく揺れる車の中で、大分、アタマもシェイクされたようで、すっかり意気消沈です。現場入りするも、暫しポーズ。

下界があれだけの土砂降りです、数百m上がったところがカンカン照りな訳はありません。当たり前ですが、やはりそこも土砂降りです。無風なのがせめてもの救いで、リアハッチを開け、まず換気。

壊れかけたアタマを、リフレッシュします。ついでにタバコを数本。

しかし、何本吸っても一向に目の前の状況は好転しません。見えていない太陽の日没の時間を考慮すると、ポチポチ下山が得策か...と考え始めた頃、雨粒がみるみる小さくなってゆきます。明るくなる兆しは無いのですが、徐々に視界が開けてきます。車外に出てみても、ずぶ濡れにはならずベチャベチャくらいで済みそうです。一気に最低限の設営を済ませ、車内に戻る頃にはすっかり雨も上がりました。

毎年、設営時にいるんな虫に悩まされるのですが、雨上がりで涼しいせいからすっかり出てきません。

冷え切った身体を温めるためにクルマのエアコン

からガンガン温風を送風します。一息つくると急に空腹を感じます。冷え切ったコンビニのおにぎりを頬張りながら、何とか出来そうなことを確認します。

思ったより、設営に手間取らなかったため、時間的にも余裕があります。やはり再現性の良い、メーカー製のアンテナを採用したのは正解だったようです。自作が決していけない訳ではありません。私の使っていたHB9CVも再現性が悪かったのではありません。ただ今回の様な、ごく限られた短時間で100%の性能を出し得るアンテナの設営において、その構造や組み立て方が、シンプルである必要性を痛感しました。

スタートから終了まで

開始直後

コンディションはまずまず。電話で始められるくらいに開けている。3エリア以西が良く聞こえている。良くは無いが悪くも無いといったところか。レートも上がらないが、まだまだ始まったばかり。ここで焦ってみても仕方が無い。しかし、信号強度の割に、呼ばれないなあ。電話とCWをいったり来たりするも、イマイチパツとしない。

2200を過ぎると関東近辺に落ちだす。コンディションは決して悪くは無いのだ。LやPの局までも、しっかりとした信号で呼んできてくれる。しかし呼ばれるときは呼ばれるが、すぐ居なくなってしまふ。思うように上がらないレートにいらつきながらも、自分をなだめる事にする。

この夜、0030でQRT。100に満たないQSO、34マルチ。悪くはない。酷いときには数十局、なんて年もあったじゃないか。未だ、強力な移動局はQSBを伴いながらもしっかり入感している。ボイスレコーダーを使っているであろうその信号は、同じセンテンスを繰り返すばかりで、なかなか応答は無いようだ。

このコンディションでは、北海道から出ても、体力を消耗するだけだ。とっとと、休む事にする。

この辺りは、キタキツネや野生の鹿はちよくちよく見かけるが、よく、クマの目撃情報が寄せられる

ような場所だ。数年前は、下界の民家にまでお邪魔したこともあり、ちょっとした新聞記事になった。なので今年も、発々は回しっ放しのままにしておく。ガソリンをケチって、夜中に森のクマさんと遊ぶ訳にはいかない。

朝

すっかり晴れた。遠くまで良く見通せる。昨夜のコンディションを引きずっているような聞こえ方しかしていない。

0700 を過ぎたあたりから、ポーっとした頭を引きずってのスロースタートになる。CW でスカッターの様な信号で入感してくる。

0826, ローカルの固定局に声を掛けられ、ご挨拶。軽く話をしていると、徐々に辺りが騒がしくなり始める。早々に失礼し、ポチポチ戦闘体勢に入る。思ったよりも安定はしていないようだ。局数 UP に苦戦する。なかなか呼ばれないので、新たな参戦者を探す。

とかく 8 エリア内のマルチは、探さないと増えないので、マルチバンドで参加している局がこのバンドに出てくるであろう時間を、うまく見つけないとそれっきりになってしまうことは多い。

そうこうしているうちに、コンディションが徐々に上がってくる。CW と電話をいったり来たりしつつも、何とかレートを上げられはじめる (20QSO/h)。コンディションは明らかに上向き。電話で出来るだけ局数の確保に努める。

昼

コンディションは続いている。あと数時間持ってもらいたい。思うように呼ばれないのは気になるが、それでもこれはこれで良い方だ、と思うようにする。パイルを捌くだけがコンテストではないのだから。

FINISH

結局、完全燃焼しないような終わり方だった。しかし、大きなトラブルもなく、例年通り楽しめたのだからそれで良いのだ。ゆっくりと撤収をし、帰路につく。

反省点

$$235\text{QSO} \times 49\text{MULTI} \times 2 = 23,030$$

数字だけ見ると、あまり良くなかったのは事実です。しかし、フル参加しても 100 局台の QSO しかできない年もあるのです。こればかりは幾らがんばっても結果に結びつかないのだから、誰を恨むわけにもいきません。しかし、もしチャンスが来た時に、それを確実にモノに出来るような運用スタイルを心掛けることが大切だと毎年感じます。

アドバイス

自分で出来ることを自分で実行してみて、そこから学ぶ物が大切だと思います。小さな設備から始めた私は、当時立派なアンテナを購入することが出来ず、自作から入りました。2ele ではもの足りなくなった私は、見よう見真似でエレメントを前後に増やしつつ上げました。最終的に 6 本まで増えましたが、その実力は未だに未知数です。

アマチュア無線を取り巻く環境も、ここ数年で随分と変わってきました。欲しい情報がすぐに手に入る昨今、アマチュア無線自体の存在すら疑問視されるようになりました。しかし数年前、コンテストで仲良くなった 6 エリアの OM 氏が、仕事で北海道に来るからとわざわざ連絡してくれたことがありました。

それまでほぼ面識の無い方が、ついではいえこんな物好きに会いに来るとなるとさすがに驚きました。コンテストをやっていなかったら、アマチュア無線をやっていなかったら、きっと一生接点の無いであろう人生をお互いに送っていたことでしょう。

そんな事があってからは、ただ勝つだけがコンテストじゃないと感じるようになりました。勿論、より上位を目指すためにスキルアップは大切です。少しずつでも努力することは必須です。しかし、自分のペースを崩さずに楽しむ。これだけが必要最小限の心意気なのではないでしょうか？

6m ではロケーションを選ぼう

電信電話部門シングルオペ 50MHz バンド
関東 1 位

JR1ERU 千野公久

得点	マルチ
606 ×	38 × 2 = 45,56

プロフィール

永き QRT の後、1997 年からカムバックしました。コンテストは昔から下手の横好きでチョロチョロ参加していましたが、本格的に参加し始めたのは 1998 年になってからです。開局当時から 6m が好きなものですから、四大コンテストを中心に専ら山の上から 6m シングルで参加しています。

使用機材

コンテストは長丁場ですから、疲れにくく快適に運用できるよう、車の後部座席に座ってちょうど良い高さの専用の机をコンパネで作り、ノートコンピュータや RIG を載せ使っています。ヘッドフォンやマイクも軽くて使いやすく疲れにくい物を選んで使っています。

リグは IC756PRO 改を愛用しています。6m での評判はあまり芳しくないのですが、バンドスコープが使えること、CW フィルターの切れと帯域を自由に設定できることが気に入って使っています。コンテストの時には 6m でさえ山の上から聞くとバンド内がぎっしり埋まって、CW では 500Hz のフィルターでは使い物にならなかった事もあります。このため、帯域が自由に設定できるリグは非常に助かります。

アンテナは 6el Yagi とヘンテナを同じ 12m のお化けポールに上げて、ローテータで回せるようにしています。本当はもう一本別にポールを上げて Yagi を 2 系統使いたいのですが、場所の制限があり同じポールにヘンテナという組み合わせで妥協してい

ます。しかし、ヘンテナは思いの外役に立ってくれます。

ログソフトは zLogWin で CW ではメモリーキー、SSB でも内蔵ボイスメモリも愛用しています。SSB での運用にはボイスメモリは助かります。

発電機はホンダの EU9i を使っています。この発電機の良いところは静かであるという事につきます。山梨の場合、運用地の多くが観光地ですので騒音は困ります。その点、この発電機は安心して運用することができます。

なぜこの部門を選んだのか

基本的に 6m が好きなこと、CW よりも電話の方が好きなこと、マルチバンドで運用する体力・気力・スキルもないと言うのが理由でしょうか・・・



12mH の 6el Yagi とその上に付けた 15mH のヘンテナ

目標

ごく単純に 600QSO × 50 マルチと考えていました。過去、FD の X50(F50) では関東以外の局が高

マルチで高得点を得ています。この時期の 6m でのコンテストでマルチ数を左右するのはなんと言っても Es の発生です。このため他エリアよりも得点を伸ばすためには、とにかく局数を上積みする以外にありません。参加局が減少している最近ではこれも限度がありますから、コンディションが爆発してマルチで大きな差が開けばどうしようもありません。

また、Es が OPEN すると標高の高い所は蚊帳の外に置かれることも多く、山岳移動局の利点が薄れてしまいます。また、多くの局が Es で聞こえる局だけを呼び出すので、同じエリア内の局は無視されてしまいます。そんなこともあり、Es だけは OPEN しないで欲しいと思っていました。

改善・強化ポイント

以前使用していた移動地は殆ど全方位に開けていましたが、肝心な関東平野へのロケーションが今ひとつでした。このためマルチはある程度稼げても局数がもの足りない状態でした。このため、最近以南-南西方面には開けていませんが、標高が 500m ほど高く関東平野には広く開けている移動地を利用しています。

運用面では、従来 CW の比率が低かったのですが、今回はかなり up するようがんばりました。

スタートから終了まで。

仕事は 13 時には終了したのですが、所用のため移動地に到着したのは夕方でした。幸い先客もなく、日没までにはアンテナを上げ 20 時までには全てのセッティングも終了させることができました。夕食を軽く摂り、ラグチューしながらコンテスト開始を待っていました。

21:00-23:00 幸いバンドエッジが確保でき、9 時台には程ほどのペースで呼んで頂け 123QSO でした。22 時台には 73QSO とペースダウンしていますが、北方面のマルチは 02 を除いて埋まってしまいました。23 時台にはビームを西向けにして西のマルチを意識し始めながら呼び回りました。ペースは 63QSO と更に悪化しますが、3/4/5/9 エリアもかな

り埋まりマルチも 29 まで伸ばせました。この時間帯に 8 エリアが OPEN したらしいのですが、私の場所からはカスリもしませんでした。

00:00-04:00 日付が変わり急激に効率が落ちてきます。更に西のマルチに注意してワッチをしますが、どうも芳しくありません。CW で FAI で 6 エリアに呼んで頂いた様ですが、非常に弱くてコピーできませんでした。こんな状態で 0 時台は 26QSO、01 時台は 25QSO と局数も極端に少なくマルチも伸びませんでした。さらに 02 時台になるとコンディションは落ちて、西も聞こえず 4QSO という状態になってしまいましたので、此处で仮眠に入ります。

05:00-09:00 5 時 30 分から戦線復帰です。移動局も目覚めてバンド内が徐々に賑やかになってきて、6 時台になるとペースも上がり、GW も伸びて四国の移動局も強力に聞こえ出しました。9 時台までに局数は順調に伸びて QSO を積み重ねました。しかし、新しいマルチは殆どありませんでした。マルチは 02 以北と 39 以西が残っています。どうしても関門海峡と津軽海峡を越えてはくれないようです。

10:00-12:00 10 時 11 時台とバンド内は更に賑やかになり、局数も順調に伸びていきますが、相変わらずマルチは増えません。12 時を回ったところで 40 から CW で呼んで頂けました。幸いなことに (?)Es は強力な OPEN ではなく他の 6 エリア参加局は聞こえず、他の局もあまり QSO していないようでした。

13:00-14:00 13 時を回ったところで、呼び回りでは効率が悪くなったので CQ を連発していました。すると幸いにも終了間際に 41 から呼んで頂けて、結局 6 エリアは 2 マルチを得ることが出来ましたが、Es は不調なままコンテスト終了となりました。

反省

局数は目標を達成できましたが、Es が OPEN せずマルチが伸びませんでした。しかし、今回のコンディションは期待した通り低調で、私にとってはラッキーでした。結果を見ても 2、3 エリアの局が得たマルチ数はここ数年と比較しても、少なかった様で

す。コンディションが悪かった分、局数の多い1エリアの優位性が際だったコンテストとも言えると思います。

今回も十分な睡眠を取っています。マルチバンドでは寝ている暇は無いと思いますが、シングルバンドでは2-3時を過ぎると社団局とお馴染みさんばかりという状態になってしまい効率が非常に低下します。むしろGWが伸び、移動局が出始める早朝に気合いを入れるためにも、この時間帯は眠ったら寝てしまうと言うのが私の考え方です。

何時になくCWのウエイトを高めましたが、生来のCW嫌いはいかんともしがたく、目標値を下回りました。もう少しねばり強くCWでの比率を上げるとマルチももう少し稼げたかもしれません。

アドバイス

6mでコンテストに移動参加しようと思う方は、まずはロケーションを選びましょう。今はカシミールなどのソフトで簡単にロケーションが良いか悪いか机の上でも確認出来ます。予め地図で移動地候補を選び、予めロケーションして飛びを確認しておきましょう。次に空中線設備を、思うところから一つ上のランクにしましょう。5mHよりも8mH、8mHよりも10mH、4elよりも5el、5elよりも7elとなるべく高く長いブームの設備を良いロケーションで用意すれば聞こえ方も呼ばれ方も違ってきます。

VUでは移動すると電波が面白いように飛ぶ

電信電話部門シングルオペ 144MHz バンド
東海1位

JO1ZRT/2 ハムランド AMC

得点	マルチ
380 ×	29 × 2 = 22,040

JO1ZRT ハムランドアマチュア無線クラブは、3年ほど前からお遊び程度にコンテスト参加をはじめた。2001年の全市全郡コンテストで、近くのコンテ

スト好きが集まって参戦し、皆で参加して戦う面白さを味わい、2002年は全部のコンテストに参加しようということになり実践しました。もちろん個々のコンテストでの入賞および年間クラブ対抗の入賞を目指しています。

メンバーは以前から参加して入賞歴もある者も何人かいるが、個人とクラブでは趣も違う。また、設備や運用面での問題も色々面白いように発生してくれる。10~20人で参加すると人間関係などもからんでくるのでトータルで指揮する必要もでてくる。それらを克服しながらの参戦もこれまた楽しいと言わなければならない。また、それぞれの技術の向上や新人の養成、地域の活性化などもあわせてめざしている。

今回のFDは、メンバーの仕事などの都合により昨年同様 JK1VRI が単独で JO1ZRT/2 を運用し、他の局は個々に近場に移動したりしてクラブ対抗でのバックアップを行った。以下は JK1VRI 岩崎氏の参戦記です (JO1ZRT / JH1WBG 斉藤 幸男)

JK1VRI 岩崎 清貴

プロフィール

1975年に7エリアで開局。JA7YDXでコンテストの醍醐味を知る。1978年1エリアにてJK1VRIを開局。10年くらいブランクのち昭和62年からFDに参加。2エリア、1エリア移動で1993年までほぼ毎年参加し賞状を頂く。その後2000年までALL JAのみクラブ局より参加。平成2001年からJO1ZRTで再度FDにも参加。

なぜこの部門を選んだのか

1987年から今までFDは2mで参加して、他のバンドより状況を把握している。また使い慣れた設備が使用できるため。

使用機材

- リグ:IC-820D, FT-847M(予備)

- アンテナ:8 エレスタック・ローテータ使用
8mh, GP 9mh
- 周辺機器:メモリキーヤー, エレキー
- 小道具:アンテナ切り替え器, ボイスメモリ
- ソフト:手書きログ

獲得目標

前年の記録及び過去2エリアに移動したときの実績を考慮して400×35とした。

改善・強化ポイント

前年の場所より, さらに良い場所を探し移動ポイントを変更した。同軸を10DFB(スタック)と8D2V(GP)に変更した。伸縮ポールを5段とし地上高を9mHとより高さをUPした。

準備

一般車通行止めの林道を使用するため, 事前に下見と林道使用許可を取った。

コンテスト当日

遅くとも14時までに現地に着くように家を出発し, 早めにアンテナ設置およびシャックを設営した。携帯電話が使用できるかどうかを確認。ロケーションのいい場所では複数の基地局がオープンし, 使用できなくなる。

明るいうちにバンド状況と各エリア向けのアンテナ方向を確認する。

ここまで終われば後は食事をして, 開始45分前まで仮眠。開始30分前にシャックに座り最後のチェック。この時点でバンドの状況から獲得目標を400×30に修正した。

スタートから終了まで

スタートはGPを使いSSBから始め, 3時間程度CQを出す。1エリア, 2エリア両方から適度に呼ばれるが, 時おり3, 4エリアからも呼ばれるコンディ

ションが続く。さすがにGPだとQRP局との交信はしんどい。開始1時間後からはスタックも使いマルチを伸ばしていった。日付けが変わってからCWに移行, が思ったほど呼ばれず, SSBに戻る。深夜帯はCQを出しながらNEWマルチを探す。

4時を回ったところでダウン。8時までぐっすり寝ってしまった。シングルバンドでは, どこかで必ず局数が落ち込むところがあるので, 私は体体温存のため寝ることにしている。朝からは, SSBで運用再開。コンディションは良くもなく悪くもなくといったところ。終了1時間前から少しコンディションが上昇するも, NEWは2つのみで15時になった。

今回, 12時過ぎにRIGにトラブルが発生した。送信中にアンテナを切り替えてしまい, リレーが受信に戻らなくなってしまった。急遽予備のRIGに交換してコンテストを続行した。この時ばかりは, 予備機を持ってきて良かったと痛感した(毎回お荷物!!)。

ここでみなさんにお願ひがあるのですが, 山に移動していると各エリアの電波が聞こえませんが, 1エリアでCQを出している周波数とオンフレで4エリアがCQを出しているといったことがよくあります。この時, 山に移動した局が4エリアをコールした場合に, 1エリアには混信となりますがこの混信は理解していただきたいと思います。

反省点

局数は, 寝過ぎたため?もあって若干少なく, マルチも1つ少ない結果でした。おおむね満足していますが, 運用中に10局程度取れない局があり直下プリアンプの必要性があると痛感した。

アドバイス

FDの場合は特にですが, 移動して参加してみてください。周波数帯・移動場所にもよりますがVHF以上であれば, 面白いように電波が飛んでいきます。またそのような場合, 山の上などでは144MHzでも混信除去装置(DSP, IFシフトなど)が必要だと実感するはずです。

あとは, 事前に持っていく物を紙に書いてリスト

アップしておくことも大切です。移動する場合はもちろんですが、固定運用でも事前準備が一番重要です。

それではどこかで、またお会いしましょう！

マルチオペの可能性を追求

電信電話部門マルチオペオールバンド優勝

JR0UUU/1 井原一高

バンド	得点	マルチ
3.5MHz	307	49
7MHz	583	53
14MHz	293	52
21MHz	362	53
28MHz	263	47
50MHz	542	38
144MHz	367	27
430MHz	454	14
1200MHz	194	13
2400MHz	38	31
5600MHz	15	14
合計	3418 ×	391 × 2 = 2,672,876

プロフィール

数年前、コンテストにおける移動 M/M(マルチオペ・マルチバンド)の可能性について追求してみようという共通の興味を持った人が集まりました。その後、ロギングソフトウェアのネットワーク化が実現され、ロギング情報を共有することが実用的なレベルに到達したことから、これを活用したらどのくらいのスコアが出せるのだろうかというのが初期メンバーの関心事でした。そこで、移動局として一番参加しやすいFDをターゲットとすることにしました。

獲得目標

コンテストは基本的に個人競技であることから自己満足の世界ではありますが、M/Mのような団体部門に参加する場合は、メンバーのモチベーションを

高めるためにも具体的なゴール(=数字)の設定が不可欠であると考えます。用意可能な機材、過去の他局のスコア、移動予定地における可視範囲のシミュレーションといったデータを元に、目標スコアを設定し、本格的に準備を始めました。

準備

M/Mではある程度の人数を必要とすることから、友人に声を掛け我々の考え方に賛同してもらえる人を探しました。参加者が固まったのは、コンテストの半月前のことです。

メンバーの経歴は、学校社団局でM/Mを経験していた人、主として移動でシングルオペオールバンドに参戦していた人、あるいは特定のシングルバンドで参加してきた人、はたまた10年程度ブランクがある人等、それぞれです。

最終的に15名を超える所帯となりましたので、まずは目標を確認することからはじめました。

初参加のメンバーとコンテスト当日に現地でききなり会うことはお互いに不安が残ることから、事前に直接会って打ち合わせをしました。チームの考え方を伝えることと同時に、チームに対するリクエストも受けました。事前準備に関するメンバー同士のディスカッションはメーリングリストを使いましたが、足りない部分は直接電話をして補いました。

常に問題点を共有し、抜けている部分がないかどうか念入りにチェックをしました。

使用設備

ソフトウェア：

ネットワークで繋がったコンピュータロギングソフトウェアの出現は、M/Mのオペレーションをまったく新しい世界へ導いたと言えます。LANケーブルとHUBがあれば、たとえ屋外でもすべてのPCを繋ぐことが可能です。

今回はすべてのPCをネットワークに繋いで、ロギング情報を完全に共有化することにしました。ロギング情報が共有できることだけでも大きな力となりますが、それ以上に強力なツールになるのがチャッ

トです。バンド毎、別々の車の中にシャックを構築することから、何らかのコミュニケーションツールが不可欠になります。

コンテスト中はオペレータの耳が塞がっていますので、チャットをつかって文字情報をやりとりすることはお互いのコミュニケーションに多大な貢献をします。しかし、メンバー全員がこれらのツールを使えなければその効果は半減してしまいます。

メンバーの PC に対する習熟度合いに差があったため、事前にオンライン練習会を開催してレベルアップに努めました。常時回線が普及した今日、各家庭にしながらログインソフトを繋ぐことによって、本番とほぼ同じ条件で練習することも可能になりました。

ハードウェア：

ハードウェアのデザインにおいては、安定性に最も重点を置きました。

移動運用のため、現地ではゼロからシステムを組むこととなりますので、リスクを負ったシステムは好ましいとは言えないからです。特に、炎天下での設営になることから、作業量の多い大型アンテナの設営は避け、コンパクトで実績のあるものを選択しました。普段、大型アンテナを使って運用しているメンバーにとってはもの足りなかったかもしれませんが、そこはなんとか納得してもらいました。

昨今における参加局数の減少の中で、どうやって得点を重ねるか？ 出された案は「聞く耳を増やす」というものです。互いに電波が干渉しない範囲で小型アンテナを数多く上げ、一つのバンドを複数の耳で聞こうという作戦を立てました。

それぞれのオペレータが技量にあわせて複数の周波数を聞き、受信した情報はネットワークを通じて共有するようにしました。さらに受信専用のサブワッチステーションを設置し、移り変わるコンディションや各シャックの把握に努めるとともに、当日の運用に関する指揮系統を一元化しました。

コンテスト当日

用意周到な準備があれば、現地での仕事を最小限にすることができます。前日に主要メンバーが現地入りし、主なアンテナの設営はその日のうちに終了。移動コンテスターにとっては慣れた作業なのでしょう。入浴のあとはささやかな宴会を開催しました。

当日は 0530 起床。暑くならない間に残った設営を終え、実際に電波を出してバンド間の干渉の確認。その間にネットワーク担当がすべての PC をチェックした上でネットワークを構築しました。

大きなトラブルもなく、ハードウェアの準備が終了したのが当日正午過ぎ。仮眠そして入浴の後、全員が PC の前に座ってオンラインミーティング。最終確認をした上でいよいよ本番に突入です。

スタートから終了まで

開始直後はネットワークに不調がみられましたが、LAN ケーブルを交換して何とか解決。無線機も PC も順調に稼働しているようです。お互いに他のバンドの様子が手にとるようにわかるため、PC を眺めているだけでも楽しいものです。全般に局数が少ないようですが、そこは受信アンテナの数で勝負。ログインソフト上では次々に未交信局情報が up され、バンド担当者が呼びに回ります。日付が変わってもなかなか局数が伸びません。チャットでお互いに励ましあいます。日の出を過ぎて、コンディションは悪くないようですが、如何せん相手がいません。サブワッチステーションからは、他局の交信状況が報告されます。どうやらオープンの範囲は限定的のようです。12 時を回るとラストスパート。あまりに呼ばれないので CQ を止めてこまめに呼びに回ります。こんなときも受信情報が強い味方になります。粘りに粘ってついに 1500、コンテスト終了です。

反省

最終スコアは目標を下回りましたが、メンバーの間では一つのことを成し遂げた充実感がありました。

あくまで自己評価ではありますが、成功といってよいのでしょう。

M/Mで結果を出すための一番の鍵は、設備でも移動地のロケーションでもネットワーク化されたログインソフトでもなく、メンバーのコミュニケーションであるというのが私の実感です。価値観の異なる複数人間が、同じゴールに向かって長い時間を共有した中で、それを支えたのは紛れもなくコミュニケーションでした。すばらしいメンバーとこのコンテストに参加できたことは幸せだったと感じています。

最後になりましたが、交信してくださった皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

悔しさを共有できたのが大きな収穫

電信電話部門マルチオペオールバンド 2位

JI2ZLX 恵麓コンテストクラブ

バンド	得点	マルチ
3.5MHz	238	43
7MHz	667	52
14MHz	243	47
21MHz	346	55
28MHz	268	34
50MHz	532	36
144MHz	320	17
430MHz	455	13
1200MHz	157	11
2400MHz	25	22
5600MHz	10	10
合計	3256 ×	340 × 2 = 2,214,080

プロフィール

1998年夏に「青山高原からFDのFMMでレコードを作ってみない?」という話がJK2VOC 福田氏・JN2FCL 浅岡氏の間で持ち上がる。その後、私が誘われ、この3人が発起人となってメンバーを募集。その年の12月にメーリングリスト (ML) を立ち上

げ、翌年7月にJI2ZLX 免許。この申請時になってやっと「恵麓コンテストクラブ」という名称がつき、現在に至る。

今もこの当初の目標を掲げつつ、M / Mでの現地乗り込みをおこない、クルーのレベルUPを図ると同時に、M / Mに興味のある方々を積極的に取り込み、M / Mならではの面白さがともに体験できる場を提供している (つもり hi)。JK2XXK / 戸根 (主宰)



なぜこの部門を選んだのか

もともと「FDのFMMでレコードを作る」ために立ち上げたクラブであるため、この部門以外のエントリーはあり得ない。

獲得目標

現時点での目標は、2001年にJR0UUU/1が打ち立てた $3,578 \times 424 \times 2 = 3,034,144$ の更新。

使用機材

3.5MHz(担当: JE1CKA / 熊谷)

Rig: FT-1000MP。500HzCW フィルターしか入っていないが、300Hz程度の狭帯域フィルターがあるとやりやすいかもしれない。性能は、各社いずれもそれほど差はなく、使い勝手で選べば良いと思う。CWではフルブレークインで交信をしている間に、SSBでニューマルチを探したりしていました。未だ使いこなせるまでには至っていませんが、それでもいくつかのニューマルチを得ることが出来ました。

Ant: 逆 V(13m 高)。設置場所の関係で、アンテナの展張方向を限定されたが、出来る限り両端を高く設置して、効率を良くしようとした。しかし、信号は余り強くなかったようです。

7MHz(担当: JM2FCJ / 大西) Rig: TS-850S を使用。

Ant: 2 系統を 90 度ビームをずらして設置。メインは逆 V。給電部は高さ約 13m。片側のエレメントだけは高い木に結び、ほぼ水平にした。サブは 714X から流用したロータリーダイポールを 9mH に設置。

14MHz(担当: 7N2UCT / 高岩)

Rig: FT-1000MP。同一バンドのデュアルレシーブができるのが特長。

Ant: マルチバンドロータリーダイポール (ナガラ・TV-416J)。移動用に改造をし、10mH に上げて使用。移動先でも確実に SWR が下がるので便利。大きな当たりは少ないが、確実な運用ができる。ローテータは無しで手動にて回転。

21MHz(担当: JK2RCP / 渡邊)

Rig: IC-756PRO。DSP 搭載機であるが雷ノイズはどうにもならず、このリグの売りでもあるバンドスコープもノイズだらけで…。ノイズがない時は自分の運用周波数周辺に強い局が出てきたなあとか一目瞭然でした。

Ant: フルサイズ 4 エレ (クリエート・CY-154)。8mH に上げる。さすがに山の上ではよく飛びました。ローテータは無しで手動で回転、ほとんどの時間首都圏中心地の南に向けていたため、正規伝搬の 8 エリアを捕まえる時は急いで回転させてました。

28MHz(担当: JR5PDX / 大野)

Rig: TS-850 を使用

Ant: フルサイズ 3 エレを 11.5mH に上げた。

50MHz(担当: JR9FFO / 自閑)

Rig: FT-655。無線機の性能はまずまずだったと思うが、電波の質が悪い移動局が電波を放射すると、バンド中ごわごわしてつらかった。

Ant: 6 エレ (Radix・RY-66A ,ローテータ付き)&5 エレ (東京方面固定)。2 系統を同軸切り替え器によって使い分け。

144MHz(担当: JE0AOV / 松澤)

Rig: TS-790S を使用。

Ant: ちょっと大きすぎた 16 エレ八木 2 列と GP(X-700H) を使用。

430MHz(担当: JK2XXK / 戸根)

Rig: メインは IC-910D。サブに TR-851 を据え、同時 2 波ワッチができるようにした。

Ant: 実績のある 18 エレ 2 列 2 段をメインに、サブに GP(X-7000) を配置。しかし 7 エリア方面は林に遮られてしまい、メイン Ant は威力を十分に発揮できなかった。

1200MHz(担当: JN3ELV / 下田)

Rig: IC-910D。聞こえはとてもよかったです。バンドスコープ機能が FM 運用で結構使えました。またオールモード機だったので、CW に出ている局とも交信できました。

Ant: コリニアと 16 エレループ八木 2 列の 2 系統。同軸切替器で切り替えたが、ランニング主体の運用だったので、結局はほとんどコリニアを使った。それでも静岡や 0 エリアと QSO。

2400MHz&UP(担当: JA1LLX / 金綱)

2400MHz(1)...Rig: FT-736+UTV-2400, Ant: 27 エレ八木

2400MHz(2)...Rig: TR-851+UTV-2400, Ant: GP

5600MHz...Rig: TH-59+UTV-5600, Ant: 45cm 径ディッシュ

10GHz...Rig: TH-59+UTV-10G, Ant: 30cm 径ディッシュ

24GHz...Rig: C601+UTV-24G, Ant: 35cm 径ディッシュ

改善・強化ポイント

ネットワークを活用したロギングをおこなうべく Win 版 zLog を導入し、その分だけ参加人員を減らした。また、2400MHz 帯以上でのマルチを稼ぐべく、運用場所を三重県から栃木県に変更。これに伴い、クルーを 1 エリア在住者中心に編成した。

準備

MLで情報・意見交換をおこないつつ、実際に移動運用をする中で問題点の洗い出しをおこなった。移動運用では野外にLANケーブルを引き回し、屋外でのネットワークの安定化を図るにはどうすれば良いかの検証もおこなった。

野外におけるLANの敷設

今回はLANにノートPCを14台接続した。HUBは、全ポートでストレート/クロスの自動判定をおこなうスイッチングHUBを使用し、容易に多段接続できるようにした。LANケーブルと同軸ケーブルを平行させない、HUBの電源を無線機のと共用しないなどの対策を施した結果、人為的ミスでHUBの電源が落ちた以外にトラブルらしいトラブルもなく、18時間乗り切ることができた。なお、張り巡らせたLANケーブルの総延長は400~500mぐらいだと思います。

目標と結果の食い違い

今回の場所はV/UHF帯で西方面の飛びが良くなく、その他にも各種トラブルがあり、目標クリアどころか1位すら取れないという惨憺たる結果に終わる。反省は多々あるが、その中でも「ネットワークを活用しきれていなかった」「クルーの意識に差があった」点が大きく響いたように思われる。その中であって、クルー全体で「悔しい」という気持ちを共有できたのは大きな収穫。この悔しさをバネに次回へつなげていきたい。

アドバイス

本格的に国内コンテストに出るようになってから2回目のコンテストであり、コンディションの把握、運用方法について知らない面もありました。学習をしながらの参加で、こうしておけば、というような反省点がいくつもありました。ただ、これはスコアにこだわるからであって、コンテストを楽しむ

という視点とはちょっと違うものです。

このような大規模な移動運用は、個人で移動する場合とは比較にならない作業が発生し、かなり労力を費やします。共通の目標に向かって一緒に行動しているのですが、その意識に違いがありそれが行動に現れて、現場での調整作業も大変でした。しかし、それがあっても楽しいもので、終わった時点で、「目標が達成できなかった、是非来年達成できるようにもう1回やろう」ということになりました。苦勞を乗り越えて目標を達成したときの喜びは、苦勞が大きければより大きくなるものだと思います。

コンテストに参加する際には、スコアだけではなく、何か一つでも目標を決めて、それをなんとか達成しようと努力してみてください。いきなり、高い目標を設定すると挫折してしまいますから、何とかなるかな? という程度が良いと思います。それにどれだけ近づいたか、あるいは達成したか、ということが、きっとコンテストの楽しみにつながっていくと思います。(文責: JE1CKA / 熊谷)

そのバンドの状況を知るために日頃から運用をする。たまには、上手な人の運用を見て参考にする。過去の成績や資料をもとに作戦を立てる。毎回何かしらか目標を立ててみる。(文責: 7N2UCT / 高岩)

当初はシングルオペ・電信オールバンドに参加予定でしたが、戸根さんからの熱い? お誘いを受け急遽M/Mで参加となりました。シングルオペをバンド分集めれば、M/Mなんてどうにかなると思ってましたが、そうでもない勉強になりました。M/Mも考えればいろいろと工夫できそうですので、一人のシングルオペで寂しくなったら、みんなでのM/Mも楽しいですよ。(文責: JK2RCP / 渡邊)

M/Mは総合力の勝負。ですから、クルーが一致団結して初めて納得のいく結果が出せると思います。そのためには無理のない目標設定、クルーを強力に引っ張るリーダーの存在、クルー全体の意識高揚...。数え出すとキリがありませんが、「みんなでひとつの目標に向かってやろう!」という気持ちが大切ではないでしょうか。

なおM/Mではオペレータがエライ! と思

われがちですが、決してそうではありません。オペレータをサポートする裏方の存在があって初めて、オペレータが運用に専念できるんです。裏方とオペレータがうまくかみ合っていて初めて、打ち上げでは「楽しかったね」と美味しいお酒が呑めると思いますよ。(文責: JK2XXK / 戸根)

私は今まで大学のクラブなどで活躍してきましたが、「まだまだ知らないことがあった」というのが今回参加した感想でした。M / Mで参加する時、大切なことはたくさんありすぎて、とてもじゃないけど簡単には説明できません。その中でも特に大切なことは次の2つです。

- たった一つの目標
- 楽しくやること

これが得点を上げる手短な方法かと思います。(文責: JM2FCJ / 大西)

コンテスト中の QSO では、「必要最低限な内容を最短時間で相手とやりとりする」ことが一番カッコいいんです。コンテスト中や 7MHz でのパイルアップをてきぱきと裁いている人の QSO を聞いてみてください。なんだか、リズムに乗って気持ちよく感じられませんか？ 最初はどうしゃべっていいのかわからなくて当然。そんなときは、カッコいい人の QSO のやり方をよく聞いて、真似してみましよう。それだけで、また違ったコンテストが味わえると思います。(文責: JR9FFO / 自閑)

目標を設定し、それに向けて力を合わせる

電信電話部門マルチオペオールバンド 3 位

JK1YMM/2 寝てはいけないコンテストクラブ

プロフィール

クラブ名が「寝てはいけないコンテストクラブ」と面白いので良く覚えていただいていると思います。が、本当は寝ている人もいるコンテストクラブで、

JA7YCQ(仙台電波高専) OB と若干名の好き者コンテスターから構成されます。

1987, 1988, 1990 フィールドデーコンテスト社団電信部門参加

1992 ~ 1997 フィールドデーコンテスト社団電信電話部門参加

1998 ~ 2002 フィールドデーコンテストマルチオペマルチバンド電信電話部門参加

バンド	得点	マルチ
3.5MHz	246	46
7MHz	640	54
14MHz	198	45
21MHz	333	54
28MHz	244	39
50MHz	470	42
144MHz	358	33
430MHz	356	24
1200MHz	106	12
2400MHz	10	10
5600MHz	11	10
合計	2,972 ×	369 × 2 = 2,193,336

使用設備

- リグ: TS850 ,IC746 ,IC910 ,FT920 ,FT847 , TS790 , TM2400 等
- アンテナ: 3.5 ,7 ,14MHz: DP , 21MHz: 3el , 28MHz: 4el , 50MHz-7el , 144MHz: 16el , 430MHz: 19el × 2 1200MHz: 32el × 2 , 2.4 , 5.6 , 10GHz: dish
- 周辺機器・小道具: ボイスメモリ , ヘッドセット , zLog-IF
- ソフト: zLog , zLogWin
- 移動機材など: 伸縮ポール , ルーフタワー , ローテータ , テント , 発電機 , しょいこ , ビール?

なぜこの部門を選んだのか

みんなで力を合わせて「コンテストの競技性」を楽しめるから。マルチオペは奥が深い、だから楽しい。

獲得目標

BAND	QSO	×	MULTI
3.5MHz	325	×	50
7MHz	710	×	55
14MHz	310	×	54
21MHz	370	×	55
28MHz	260	×	53
50MHz	640	×	53
144MHz	420	×	36
430MHz	270	×	25
1200MHz	100	×	12
2.4GHz	35	×	28
5.6GHz	20	×	18
10GHz	5	×	5
TOTAL	3,465	×	444

改善・強化ポイント

- 430MHz が 1 エリアに近くなるよう 21MHz と 430MHz の運用場所を交換。
- 50MHz に直下プリアンプを導入し、バックから呼ばれる 1 エリアに対してローターを回さなくとも対応できるよう改善。
- 2.4GHz+5.6GHz に 1.2m の DISH 導入。
- 144MHz をシングル八木アンテナに変更。(昨年スタックで切れすぎたため)
- 21MHz にローター取り付け。(21, 28, 50, 144, 430, 1.2G, 2.4G, 5.6G, 10G でローター装備)

準備

10 年間ほとんど固定のメンバーで参加しているので役割分担はある程度決まっています。新たな改善、強化の案については不定期で行なう作戦会議(ただの飲み会)やメーリングリストで話し合い、手分けをして準備しています。

コンテスト当日

前日まで現地に集合したメンバーにより、日の出と共にアンテナ設営が始まります。駐車場から運用場所の展望台までの荷揚げもあり、途中休憩をはさみ午後から夕方までかかります。

アンテナ設営が進むと後はテント、リグ等オペレート環境を準備しますが、それぞれのバンド担当者が自分のバンドを準備します。

準備完了後、夕食を食べながら直前ミーティングを行い志気を高めます。

スタートから終了まで

人数が少なく設営で疲れたのかいつもよりオペレートに集中できませんでしたが、担当バンドが暇になる時間帯や元気な人が他のバンドの支援に行くなど、人数が少ないなりにやりくりしました。

今回は 14MHz でコンテスト途中リグのトラブルがあり大幅に目標に届きませんでした。やはりコンテスト中トラブルが発生した場合人数が少ないとバックアップがうまくできず苦労します。

反省点

コンディション & 参加局数はいまいちで、昨年と比較して局数・マルチとも大幅に減らしてしまいました。

反省点は各バンド担当者から出し合いましたが、やはり疲れから途中気が抜けたり、いつもと違うバンドを担当しうまく QSO 数を伸ばせなかった等、オペレートテクニックに関するものが多かったです。設備に関しては 10 年間続けてきたノウハウもあり安定してきたようです。

来年へ向けてはマルチ稼ぎに重要な SHF の強化が必須と考えてます。

アドバイス

「自分たちの身の丈に合った具体的な目標を設定し
それに向かい力を合わせる。」マルチオペ部門はみんな

で1つの目標に向かって力を合わせ、そしてその
目標が達成された時の充実感が最高だと思います。
たとえ目標に届かなかったとしてもシングルオペで
は味わえない魅力があります。

タイムチャート

今回、レポートをいただいた入賞局のタイムチャートです。これはログを時間軸で集計したもので、何時台にどれだけQSOしているのか、休息しているかが分かります。マルチバンドではバンドチェンジのタイミングなども掴めます。

入賞局のタイムチャートを元に、ご自分のログを分析してみると、次回どのように戦えばより得点アップできるかが見えてくるでしょう。

JO7GNI/7 電話部門シングルオペニューカマー

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
7	39	28	24	-	-	-	-	-	-	-	-	12	19	3	46	16	-	-	187
21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	11
合計	39	28	24	-	-	-	-	-	-	-	-	12	19	14	46	16	-	-	198
累計	91		91		91		103		182		198								

JM1LRQ/1 電信電話部門シングルオペオールバンド

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
3.5	-	-	-	51	15	10	19	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	108
7	-	-	-	-	28	31	27	17	1	-	32	-	-	-	18	-	-	-	154
14	-	21	-	-	-	-	-	-	1	14	14	9	19	5	-	16	15	-	114
21	18	11	-	-	-	-	-	-	3	28	-	-	40	9	4	5	37	-	155
28	11	-	-	-	-	-	-	-	3	7	8	-	-	11	3	-	1	-	44
50	-	32	47	-	30	12	-	3	26	5	11	-	37	-	-	-	29	-	232
144	-	-	29	-	-	7	-	-	2	10	-	-	-	-	-	18	-	-	66
430	-	-	14	19	-	-	-	2	-	23	-	-	-	-	54	-	-	-	112
1200	37	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	38
2400	12	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	1	2	-	-	25
合計	78	69	90	70	45	57	50	45	45	47	60	54	50	60	80	45	50	53	1048
累計	237		409		549		710		900		1048								

JE41MHL/4 電信電話部門シングルオペ 14MHz バンド

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
14	54	42	18	14	9	6	4	1	4	6	7	23	32	22	21	18	26	29	336
累計	114		143		152		188		263		336								

JE8FGY/8 電信電話部門シングルオペ 28MHz バンド

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
28	17	33	34	12	-	-	-	-	-	-	7	5	4	20	23	16	27	37	235
累計	84		96		96		108		155		235								

JR1ERU/1 電信電話部門シングルオペ 50MHz バンド

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
50	123	73	61	26	25	4	-	-	11	29	27	30	45	26	53	33	24	16	606
累計	257		312			323			409			533			606				

JO1ZRT/1 電信電話部門シングルオペ 144MHz バンド

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
144	72	60	17	19	19	16	-	-	-	-	9	30	29	19	30	30	16	14	380
累計	149		203			203			242			320			380				

JR0UUU/1 電信電話部門マルチオペオールバンド

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
3.5	63	53	35	33	26	19	11	9	16	19	9	2	2	-	2	3	2	3	307
7	53	48	50	39	34	23	13	8	20	36	18	44	37	25	29	26	27	54	584
14	38	21	17	9	7	2	-	1	12	12	21	25	35	18	20	20	15	20	293
21	51	45	47	23	16	9	4	1	4	14	11	20	21	30	18	14	15	19	362
28	29	33	28	12	4	4	-	-	3	9	15	19	20	24	11	14	13	25	263
50	86	54	45	36	26	13	10	11	16	23	32	24	26	36	38	22	25	19	542
144	66	61	32	15	10	13	10	-	8	12	14	17	29	16	15	19	17	13	367
430	61	45	35	24	16	8	5	10	13	13	27	24	35	45	26	25	21	23	456
1200	48	26	17	10	3	3	-	-	2	6	13	8	10	19	9	7	10	6	197
2400	20	4	1	1	-	-	-	-	-	-	1	5	4	1	-	-	1	-	38
5600	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	1	2	2	-	1	-	15
合計	519	390	307	202	142	94	53	40	94	145	162	191	220	216	170	150	147	182	3,424
累計	1,216		1,654			1,841			2,339			2,945			3,424				

J12ZLX/1 電信電話部門マルチオペオールバンド

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
3.5	54	23	22	34	22	25	13	9	16	12	12	5	4	1	1	4	1	2	260
7	58	57	48	58	48	23	19	8	14	44	48	51	44	30	41	33	37	34	695
14	23	19	21	7	11	8	7	8	6	11	10	16	21	21	13	14	18	16	250
21	41	50	22	20	10	20	5	6	7	11	15	15	26	11	14	14	19	41	347
28	35	25	17	13	12	3	5	2	1	10	14	23	19	21	20	16	11	29	276
50	90	51	59	21	28	16	9	14	19	23	20	19	28	31	41	21	21	24	535
144	61	30	27	19	20	8	9	8	7	12	21	11	12	17	16	19	19	12	328
430	21	67	44	35	20	7	5	7	14	18	27	29	33	10	46	39	31	14	467
1200	42	21	12	7	3	3	2	-	2	4	7	8	5	7	14	8	8	5	158
2400	8	3	-	-	1	-	-	-	-	1	-	2	4	2	-	-	4	-	25
5600	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	3	-	1	-	10
合計	435	347	272	214	175	113	74	62	86	146	174	181	196	152	209	168	170	177	3,351
累計	1,054		1,556			1,778			2,279			2,836			3,351				

JK1YMM/2 電信電話部門マルチオペオールバンド

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
3.5	48	57	31	23	20	15	13	4	12	17	6	-	-	-	-	-	-	-	246
7	73	29	67	46	37	27	19	17	37	22	35	52	31	29	27	21	29	42	640
14	11	22	17	6	7	6	-	-	4	13	7	20	27	15	12	13	9	9	198
21	40	30	27	25	20	13	2	1	2	4	20	16	25	23	29	18	19	19	333
28	29	23	16	18	12	-	-	-	6	11	21	19	12	17	22	13	6	19	244
50	88	52	37	51	24	14	7	6	11	14	30	23	26	7	27	21	10	22	470
144	41	38	29	18	17	10	-	1	3	22	33	20	30	26	0	10	23	17	358
430	45	56	25	18	7	9	7	7	4	7	24	9	13	35	24	21	24	22	357
1200	22	13	13	4	3	6	-	-	-	-	4	10	11	6	-	2	9	3	106
2400	5	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	10
5600	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8	-	1	-	-	-	-	11
合計	402	322	262	209	147	101	48	36	79	110	182	177	176	160	161	119	129	153	2,973
累計		986		1,443		1,606		2,075		2,572		2,973							

マルチオペ 3 局の QSO 数推移

